

「わかる」授業づくり を目指して(3)



— 学習が役立つことを実感できる日々の表現活動 —

井上 志帆 Inoue Shiho (福岡県川崎町立池尻中学校)

1. はじめに

前回まで、「わかる」授業づくりのために、日々の授業でできる工夫や、「読む力」をつけるための取り組みを紹介してきました。最終回となる今回は、今までの活動を踏まえて、英語学習が少しでも役に立つと生徒が実感できる表現活動について紹介しようと思います。

2. 表現活動のねらいを明確にする

教科書の各課を学習することによって、実生活でも役に立つ力がつくという実感を持たせることができれば、生徒への英語学習の動機づけができ、やる気を持たせることができると思います。ただ、授業の中でそれを実感させることはなかなか難しいのが現実です。

そこで重要になるのは、何のためにその活動をするのかということを明確にした表現活動をさせることだと思います。NEW CROWNの教科書でいえば、USE IT や TRY に取り組むときに、その活動のねらいを示すと、生徒も何ができるようになるというイメージができると思います。

また、個々の活動や1時間の授業のねらいだけでなく、各課の学習に入るときに、「LESSON ○を学習して～できるようになろう(～しよう)」など、単元の目標(表現活動の目標)を明確に示すよいと思います。

[各課の表現活動の例]

- | | |
|--------------|-------------|
| ・自己紹介 | ・第三者についての紹介 |
| ・Show & Tell | ・スキット作りと発表 |
| ・英語での意見交流 | ・英作文とスピーチ |

表現活動を取り入れることは、限られた授業時数の中である程度の時間の確保をすることが必要になるので、それらを見通した授業計画の組み立てが必

要になります。

3. 話す活動

以前にも書いたことですが、教科書の本文にしる、重要文にしる、音読をすることは有効です。私が授業で感じるのは、しっかり声を出して音読できると、発音や耳が鍛えられるだけでなく、それによって生徒の気持ちも、前向きになってくるということです。

音読で英語を声に出すことに生徒が慣れてきたら、日々の授業の様々な場面で、声に出して自分のことを表現させると、学習した表現がより確実に身につく、英語を話すということの実感が持たせられると思います。次にその活動例を紹介します。

① 既習事項を利用した Q&A

既習事項の復習と授業のウォームアップを兼ねて、授業の始めに教師対生徒のQ&Aを口頭で行っています。例えば、過去形や未来表現を使った次のような質問をし、生徒自身のことを答えさせます。

[質問内容の例]

- ・ Did you study after dinner last night?
- ・ What time did you get up this morning?
- ・ Will you watch TV tonight?
- ・ What will you do this weekend?

あくまでもウォームアップなので、3～5人の生徒に答えさせる程度の、短時間の活動とします。1回の授業で答える生徒は少ないのですが、指名する方法を工夫し、最終的には全員を指名するようにしているので、質問に答える機会は全員にあります。

授業の中で、生徒が既習事項を使って話す機会は、こちらで仕組みない限りあまりありません。この活動を行うことは、そういった既習の重要表現や単語の復習になるだけでなく、英文を自分の頭の中で構成する練習にもなります。さらに自分自身のことを答えるので、より現実的なやりとりができます。

はじめは、生徒は積極的に取り組まないかもしれませんが、	matter?
ないと思いましたが、実際はどの生徒も前向きに答	Mike : ().
えようとしています。テストではないので、答えにつま	Kumi : When did it start?
ればこちらからヒントを出したりもしますが、生徒	Mike : ().
同士で助け船が出ることも多くあります。その点	Kumi : I will go to the nursing room
も、生徒が前向きになれる要素かもしれません。当	with you.
てられた生徒のみでなく、他の生徒にとっても、こ	Mike: Thank you. It's very kind of you.
の活動はよい復習になっているようです。	Kumi: ().

② スキット作り

前述のように、英語学習の動機づけとなる表現活動の1つに「スキット作り」があります。自分で、またはペアやグループで内容を考え、短い対話文を作って発表するというもので、これを効果的に利用できれば、授業での学習がいつか役に立つかもしれないという実感にもつながると思います。

スキットを作らせる方法としては、場面設定をしたり、いくつかの表現を使うことを条件として出したりする方法があると思います。例えば、「病院での医者と患者の対話を作る」や「will と must を使った文を必ず対話文の中に入れる」などです。

しかし、スキット作りに慣れていないと、一から対話文を作るのは難しく、時間もかかるので、最初はある程度こちらで対話文を作っておくといえます。その中に空欄をいくつか入れておいて、生徒に空欄に入れる言葉を考えさせ、対話文を完成させるのです。慣れてきたら、生徒が考えて作る部分を増やしていくといえます。作成したスキットはみんなの前で、暗記をして発表します。時間的な制約もあるので、全員を発表させることを考えて、対話文はあまり長くないものでよいと考えます。

[対話文の例(空欄に入る言葉を考えさせる)]

例① At school

Ken : What will you do this weekend?

Emma : I will ().

Ken : Sounds interesting.

Emma : How about you? What will you do this weekend?

Ken : I will (). I must ().

Emma : Oh, I'm sorry to hear that.

例② At school

Kumi : You don't look well. What's the

③ 英語での意見交流

「あるテーマを与えて、それに対する自分の意見を英語で述べる」ということも、話す活動としてできるとよい表現活動のひとつです。これを ALT との授業で行うと、ALT との意見交流にもなり、おもしろいのではないかと思います。テーマは、最近のニュースの話題から取り上げるのもよいと思いますが、なかなか難しいので、賛成か反対かの立場、または二者択一するような内容で意見が述べられるものを取り上げると、自分の考えを言いやすくなるのではないかと思います。

[テーマの例]

・ 映画を映画館で観るか、DVD で観るか

・ 「ハゲワシと少女」の写真をケビン・カーターは撮るべきだったか否か (NEW CROWN 3 より)

・ 中学生が携帯電話を持つことに賛成か反対か

より活動を発展的にするには、自分の意見を一方的に述べることにとどまらず、反対の立場の人に質問したり、ディベートまでできたりすると、よりおもしろくなっていくかもしれません。これを実行するには、自分の意見の言いやすさや、相手の意見をきちんと聞き取ることを考えて、少人数の授業で行う方がいいのではないかと思います。

英語を学習することが役に立つということは、自分が発した英語を通して、自分自身の考えを相手(特に外国の人)に伝えることができたときに強く実感できると思います。

④ 書く活動(英作文)

現在、3年生で英作文の練習を行っていますが、生徒は英作文が苦手だということを改めて感じます。ただ、それを克服するには、最初はとにかく間違っ

てもいいからたくさん文を書くことだと思うので、生徒にも常にそれを伝えながら、英作文に取り組ませています。	・ Have you ever been to a foreign country?
高校入試にも英作文は出題されることが多いので、特に3年生は英作文の力をつけることが必須です。1学期から2学期にかけては、各課の重要表現を小テストをしながら覚えさせ、教科書を学習し終えた3学期は、入試に向けた英作文に取り組んでいます。長文読解やリスニング、既習文法の復習など他の学習内容もあるので、毎時間の授業で英作文をするわけにはいきません。	・ What do you want to be in the future?
そこで、英作文のテーマをいくつかまとめて生徒に提示し、授業で一斉に英作文に取り組む以外に、個人で自主的に取り組めるようにします。学級には英作文の用紙を袋に入れて常備し、いつでも生徒が取ることができるようにしておきます。次のような手順で英作文に取り組めます。	・ Is it difficult for you to live without your own cell phone?
① テーマにそって英作文をする	[生徒の英作文の例]
② 教師に提出して添削を受ける	例① “Which season do you like the best?”
③ 添削を参考に英文を書き直す (※ OK が出るまで繰り返す)	I like fall the best. Fall is not too hot and not too cold. So fall is very comfortable. We have a lot of delicious food in the fall. We can see beautiful leaves, too. (35 語)
④ 清書をして提出する	例② “Do you like reading books?”
⑤ 次のテーマの課題に取り組む	Yes, I do. I often read books when I am free. I learn a lot of things from books. So I sometimes go to the library with my friends. We enjoy reading books there. (34 語)

5. おわりに

このように、1つのテーマの英作文を完成させ、次のテーマの課題に取り組むという方法をとっています。英作文をするときの条件として、文の数はいくつでもよいが、30語以上使うようにと伝えています。また、あらかじめ英作文をするときの参考表現を、プリントにまとめ、なかなか自分一人で英文が書けない生徒の助けになるようにしています。	生徒に英語の様々な力をつけさせるために、全国の先生方が日々、試行錯誤をされていると思います。私もその一人で、今後も教師である間は、ずっとそうありたいと思っています。私はよいと思われることは、できるところからどんどん取り入れていきたいと思っていますが、そうするだけでは、指導が行きあたりばったりになってしまいます。そうならないように、3年間を見通した計画を持つことが必要です。結果はすぐに出ないことが多いため、あれこれ試してみても継続性に欠けることになってしまいますが、継続性がないと効果は出てこないのも、柔軟性を持ちながらも系統だった継続性のある指導内容を確立させることが必要だと感じています。
実際には、英作文をする作業は、最初はなかなか進みません。しかし、英語が得意な生徒が徐々に積極的に取り組み始めます。なかには課題として出されたテーマを全部書き終えて、同じテーマで再度内容を変えて書く生徒もいます。そんな姿勢に刺激を受けて英作文に取り組む生徒が他にも出てきます。少しでも多くの生徒が前向きに英作文に取り組めるようにしていきたいと思っています。	また、今後は小学校に英語が必修になることによって新たな課題も出てくると思います。中学校入学の時点で英語に対してプラスイメージを持っている生徒がいる一方、マイナスイメージを持っている生徒が出てくることも考えられます。それにどう対処していくかで頭を痛めることになるかもしれませんが、一人で悩むのではなく、日頃からの他の教師との意見交流や情報交換を行うことが大切だと思います。
[英作文の課題の(一部)]	
・ Which season do you like the best?	
・ Do you like reading books?	